

普及技術（平成25年度）

分類名〔家畜〕

平成25年度選抜種雄牛「仁美桜」
ひとみざくら

宮城県畜産試験場

1 取り上げた理由

肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定は、優れた宮城県産の種雄牛を造成し地域の肉用牛の改良を推進するため実施されている。産肉能力検定の結果、宮城県の肉用牛改良委員会で「仁美桜」が選抜され基幹種雄牛となったのでその特性を示し普及技術とする。

なお、平成25年9月から家畜人工授精用凍結精液が配布されている。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛「仁美桜」と産子の枝肉（ロース）



2) 特性等

a 生年月日，産地，血統，特性（優点，欠点）

生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	優点	欠点
H20. 3. 19	伊具郡丸森町	奥北茂	金幸	平茂勝	発育，体積，資質	肩付，外腿

b 現場後代検定

	頭数	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積(cm ²)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	4等級以上率 (%)
去勢	12	29.3	496.2	57.3	8.7	6.2	66.7
雌	7	29.0	435.3	58.4	8.4	7.3	100
全体	19	29.2	473.8	57.7	8.6	6.6	78.9
全国(注)			448.8	54.5	7.5	5.5	

(注)：平成23年度広域後代検定平均値

(問い合わせ先：宮城県畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

3 利活用の留意点

- 1) 「仁美桜」は父に「奥北茂」，母の父に「金幸」，母の母の父に「平茂勝」の血統であり，茂金系，栄光系，気高系からなる血統構成で質量兼備型種雄牛である。
- 2) 「仁美桜」の産子は，現場後代検定の結果から，枝肉重量，バラの厚さ，脂肪交雑ともに良好であり，子牛の発育においても平均以上の発育が期待できる。
- 3) 「奥北茂」を父牛に持つ繁殖雌牛との交配は近交係数が高くなるので，避けた方がよい。

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 肉用種雄牛の検定（平成20～25年度）
- 2) 参考データ
 - a 和牛産肉能力直接検定成績

1日平均 増体重	365日 補正体重	余剰飼料摂 取量(TDN)*	粗飼料 摂取率
1.39kg	496.9kg	-60	53%

※：余剰飼料摂取量（TDN）について

直接検定牛の飼料効率を表す指標で，一定の増体が確保された中で飼料効率に関する能力を把握するもの。0が平均値を，マイナスは飼料効率が良いことを意味する。

- b 「仁美桜」の標準化育種価（SBV）※

平成25年12月分析 第30回宮城県和牛育種価報告より算出



図1：仁美桜の標準化育種価※

※：標準化育種価（SBV）について

- ・上記6形質について、県内繁殖雌牛の平均値を0として種雄牛の持つ遺伝能力（育種価）を次式によって標準化したもの。ただし、皮下脂肪厚については、薄い方が良いため±を逆と表示する。2～-2は標準偏差（σ）単位。

$$SBV = (\text{当該種雄牛の育種価} - \text{県内繁殖雌牛の育種価平均}) / \text{県内繁殖雌牛の育種価の標準偏差}$$

- ・標準化育種価の値が大きいほど好ましく、その大きさを個体の持つ能力・特徴を表すことができる。
- ・一般的に1を超える場合、その能力を強く有するものとみることができる。

※：育種価「A～C」評価について

- ・各形質において、上位1/4以上の範囲に入る育種価を持つ個体を「A」、上位1/4未満、平均以上の育種価を持つ個体を「B」、平均未満の育種価を持つ個体を「C」として表示。

- 3) 発表論文等
なし